

平成28年第1回網走市総合教育会議議事録

1. 開催日時 平成28年12月2日（金）

開会 午後1時30分

閉会 午後2時15分

2. 開催場所 網走市役所市議会委員会室

3. 協議事項

（1）教育課題について

- ・学力、体力向上について
- ・不登校の状況と対策について
- ・スポーツを通じての健康づくりについて

（2）その他

4. 出席委員

網走市長 水 谷 洋 一

網走市教育委員会

教育長 三 島 正 昭

委員 新 谷 哲 也（教育長職務代理者）

委員 富 永 雄 一

委員 中 山 真 弓

（委員 杉 本 匡 規 欠席）

5. 会議に出席した事務局職員

学校教育部長 田 口 桂

社会教育部長 猪 股 淳 一

社会教育部参事監 米 村 衛

社会教育部次長 岩 本 博 隆

管理課長 林 幸 一

社会教育課長 吉 村 学

スポーツ課長 大 西 広 幸

美術館長 古道谷 朝 生

図書館長 笹 尾 誠

社会教育部参事 本 間 保 司

企画総務部長 岩 永 雅 浩

管理課庶務係長 松 原 幸 信

6. 傍聴者 1名

7. 議事の経過 別紙のとおり。

田口学校教育部長 定刻になりましたので、ただ今から平成 28 年度第 1 回網走市総合教育会議を開会いたします。開会にあたり、水谷市長から挨拶があります。

水谷市長 本日は、今年度1回目の会議となります。新谷職務代理者をはじめ、各教育委員の方には日頃から子どもたちの教育の充実施策、社会教育の推進のためにご尽力をいただいておりますことに改めて心から感謝を申し上げます。まちづくりの根幹はやはり人づくり、人材育成だと考えております。そのためにも、子どもたちが心身ともに健やかに成長できる、安全で安心な教育環境を整備し提供していくことが大切なことと考えているところであり、網走の教育の方向性をしっかりと見出し、教育の向上に努めてまいりたいと考えておりますので宜しく願いいたします。簡単ではありますが、開会にあたっての挨拶といたします。宜しく願いいたします。

田口学校教育部長 この後の議事の進行につきましては、水谷市長にお願いします。

水谷市長 それでは、協議事項(1)「教育課題について」を事務局から説明願います。尚、説明は、着席のままで結構です。

林管理課長 網走市の児童生徒の学力の状況並びに、学力向上の取り組みにつきまして、「平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果」からご説明申し上げます。お手元の資料 1 ページ、資料 1 をご覧いただきたいと思います。今年度は、小学校 6 年生 278 名、中学校 3 年生 314 名を対象に 4 月 19 日に実施いたしました。1 ページには、「各教科の平均正答率」の表と「各教科・領域別の状況」のレーダーチャートを記載しております。全国との差で見ますと、小学校、中学校ともに、「国語AB」「算数・数学AB」いずれも全国平均を下回っております。北海道と比較しますと、小学校の「国語A」「算数B」で全道平均を上回っております。各教科・領域別の状況については、レーダーチャートをご覧いただきたいと思います。小学校は各領域で全国より「やや下回っている」ものの、全国と比較して特徴的な傾向を示す教科、領域はありませんでした。中学校は、国語においては、全国と近いところに網走のグラフが位置していますが、数学においては、全国との差が開いている領域があることがわかります。

続いて 2 ページの「児童生徒質問紙調査のレーダーチャート」をご覧ください。生活習慣、学習習慣のチャートから読み取れる点として、「1 日にゲームをする時間」、「1 日に携帯電話やスマートフォンをする時間」が児童生徒ともに全国より長いこと、「学校の授業時間以外に 1 時間以上勉強する」児童生徒の割合が全国に比べ低いこと等がわかります。これは、昨年と同様の傾向になっております。下段、自尊意識、規範意識のチャートをご覧ください。昨年まで、「自分にはよいところがあると思う」という自尊意識が全国に比べ低い傾向にありましたが、今年度は、全道に比べやや高く、全国とほ

ば同様の傾向となりました。これまでの課題を受け、各学校において道徳教育やキャリア教育の充実を図ってきたこと、教員児童生徒の思いを受容しようとする関わりをしてきたことが成果につながってきたのではないかと考えております。児童生徒質問紙の結果は、年度によって特徴が異なり、網走市の特徴・傾向という見方ができないところもありますが、「1日の学習時間」や「テレビを見る時間」など、継続して課題が見られるところを重点課題とした取り組みが必要であると考えております。2ページ下段に、全国より高い傾向を示した項目を記載しております。小学校で、「学校に行くのは楽しいと思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」、中学校では「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」といった設問で、全国よりも高い傾向を示したことは喜ばしい結果であり、学習指導以外の部分でも各学校の指導が充実してきたことの表れであると受け止めております。

3ページは、「網走市教育委員会における学力向上の方策」について、7点について記載しております。網走市の子どもたちの学力は、経年比較では改善の傾向は見られておりますが、今年度は全ての教科で全国平均に届いていない状況にありました。教育委員会、学校、家庭、地域が連携した取り組みを進め、網走市の子どもたちの力をより一層発揮させる必要があると受け止めております。学力の課題や、これまでの取り組みの成果を学校・家庭・地域と共有するとともに、児童生徒一人一人が確かな学力を身に付けるための取り組みを充実させる方策を示しており、多くは昨年度から引き続き取り組むものですが、新たなものとして、3の(6)「東京農業大学との連携による、『長期休業中の学習サポート』『土曜学習サポート(あばしり寺子屋)』を推進します。」4の(4)「日本体育大学との連携による、『子ども体力づくりサポート』を推進します。」の2点を加えております。また、新たな方策として追加いたしました、東京農業大学との連携による事業といたしまして、今年度、市内小学校3年生以下を対象とした「土曜学習サポート事業・あばしり寺子屋」を6月から11月にかけて、計5回実施し、35名の児童に参加していただいております。学力向上についての説明は以上でございます。

続きまして、網走市の児童生徒の体力の状況並びに、体力向上の取り組みについて、ご説明申し上げます。体力テストにつきましては、全国調査の対象となるのは、小学校5年生と中学校2年生ですが、網走市におきましては、6月～7月に全小中学校の全学年で実施しております。

今年度の調査結果につきましては、12月中旬に届く予定になっておりますことから、本日は、「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」から、体力の状況について説明させていただきます。4ページの資料2をご覧ください。「体格に関する結果」を記載しております。網走の子どもたちは、全ての学年で、「身長」「体重」とも全国平均を上回っております。しかし、「身長」の上回り方に比べ、「体重」の上回り方が多いため、肥満傾向児の割合が若干高くなっております。次に、5ページには、「実技に関する結果」を記載しております。小学校男子では、「握力」「上体おこし」「反復

横とび」「ソフトボール投げ」の４種目で全国を越え、26年度との比較では、「長座体前屈」以外、全ての種目で上回っております。小学校女子では、「握力」「上体起こし」「反復横とび」「50m走」「ソフトボール投げ」の５種目で全国を越え、26年度との比較では、男子同様「長座体前屈」を除き、全ての種目で上回っております。中学校男子では、「握力」、「ハンドボール投げ」の２種目で全国を越え、26年度との比較では、「長座体前屈」「反復横とび」を除き、全ての種目で昨年度を上回っております。中学校女子では、昨年同様全ての種目で全国を下回りましたが、26年度との比較では、「握力」「長座体前屈」を除き、全ての種目で前年度を上回っております。5ページ中段に、運動に対する意識、運動習慣等の状況について記載しております。小学校では、運動部等に入っている割合が全国より低く、土日の運動時間も全国平均よりも短くなっております。中学校では、平日、土日の運動時間は全国平均と同様か高い傾向を示しております。中学校女子は、実技において全国平均を下回る結果となっておりますが、「運動が好き」「平日・土日の運動時間」などで全国より高い傾向を示しております。学習指導要領に示されている体育科の目標には、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる」とあります。その点を踏まえ、小学校、中学校ともに「運動が好き」と答える児童生徒の割合をより高めていくための取り組みを進めていくことが肝要であると考えております。5ページ下段には、本調査結果を受けての改善に向けた方策を示しております。各学校では、体育の授業改善に努めるとともに、1校1実践の取り組みなどを進めており、調査結果からは、小学校、中学校ともに改善の傾向が見られておりますが、課題の改善に向けた取り組みの充実を図る必要があることから、網走市教育委員会の方策として、8点記載しているところでございます。児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等の状況を学校・地域・家庭で共有し、体育・健康に関する取り組みの改善・充実に努めていきたいと考えております。また、日本体育大学との連携による事業といたしまして、今年度、市内2校におきまして、日体大講師をゲストティーチャーとしてお迎えし、全てのスポーツ競技に繋がる「からだづくり運動」の指導をいただいたところであり、今後も引き続きこの事業を推進してまいりたいと考えているところでございます。以上で学力・体力向上についての説明を終わります。

水谷市長

只今、説明のありました「学力、体力向上について」、何か、ご質問ご意見等ございますでしょうか。

新谷職務代理者

私の感想を述べさせていただきます。まず、学力については、徐々に向上していると思う。学校によっては、平均以上のところもあるが、全学校で平均して上がるよう努力していかなければならない。学力向上は、学習支援員の利用等や農大の協力等すでに取り組んでいるが学校のみならず、家庭における取り組みも大切だと思うし、先程話に出た日体大や農大との連携や地域の人々とともに、総合的に取り組んでいく必要があると思う。

体力においては、やや肥満傾向となっているが、それ程、悪くなく、平均的であると思う。網走には、有名なスポーツチーム等も合宿で訪問しており、スポーツ交流も盛んなことで、刺激を受け、スポーツに関心をもち、参加するなどして、体力の向上を目指して欲しい。学力、体力とも各種連携し、総合的に取り組んでいただきたい。このような活動を今後も継続して欲しい。

水谷市長 ただ今、新谷委員よりご意見ありました、学力について総合的には良くなっているが、学校間格差が大きいとの指摘および農大の協力や学習支援員の効果については、いかがでしょうか。

田口学校教育部長 1 点目の学校間格差については、学校規模による被験者数の違いもあり、小規模な学校については、格差も大きくなりがちである。一方で、格差があることは、間違いない為、網走市学力向上推進委員会等で、うまくいっている指導事例等の紹介をするなどの取り組みを通じ、全体の底上げを図っております。

2 点目の農大連携の寺子屋事業については、大学の先生等、非常に熱心に取り組んでいただけてます。1 年目でしたので、手探りの状態であり、課題点も発見できました。これをもとに次年度以降も協力体制で行っていきたい。

3 点目の学習支援の関係は、中学数学の点数が低い部分などから、これらの部分に、学習支援員を使用した習熟度別授業等を行うなどしている。これにより、一定の成果は、現れてきていると思うので、継続して取り組んでいきたい。

水谷市長 体力向上において、今回、2 つの学校を日体大の講師が訪れ特別授業を行ったが、どんな感じでしたか。

田口学校教育部長 先般、日体大の准教授である伊藤先生に来ていただき、授業を行っていただいた。見ていただいた先生からは、とくに小学校の先生からは、体の操り方、柔軟性の向上について迷っている部分もあったが、子ども達の楽しそうな様子に参考となったとの感想を得た。一方、課題としては、見学の人数が少なかったこともあったため、次年度は、担当の先生等への広報、周知にもう少し力を入れたい。

三島教育長 学校間格差については、まずは、自校の分析をしていただき各校で原因にあった取り組みを進めてほしいと校長先生方には、願っています。

中山委員 農大生のあばしり寺子屋のような取り組みを、放課後の学校で行うことは、可能ですか。

三島教育長 農大生の協力は、夏・冬休みに頂いている。平日の放課後については、検

討もしてみました。農大生自身も授業やゼミ等あり、時間をとってもらうことは、難しく、今後の検討課題です。

水谷市長 他にございますか。

新谷職務代理者 新教育委員会制度において総合教育会議が開催されることとなり、市長と検討の場ができました。教育委員会としての課題も多くありますが、これを執り進めるための予算的配慮も厳しい中ではありますが、よろしくお願いいたします。

水谷市長 市の財政状況については、交付税減、人口減等の影響により大変厳しい。このような厳しい中、近年、ふるさと納税に力を入れ、有意義な使い方として、教育分野への活用に力を入れている。少年団の支援、プラスバンドの支援、子どもの医療費支援、就学支援および学校におけるＩＣＴ機器の整備等に使用してきました。今後も子どもの未来に向け、この部分の活用をしていきたいので、良い活用方法あれば、相談いただきたい。

新谷職務代理者 ありがとうございます。

水谷市長 では、次に「不登校の現状と対策について」について説明をお願いします。

林管理課長 児童生徒の不登校の現状と対策についてご説明申し上げます。
資料の６ページ、資料３をご覧くださいと思います。過去２年間の不登校児童生徒の人数について記載しております。ここに記載しております人数は、文部科学省が毎年実施する、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」により把握した人数になっております。

「不登校」の扱いにつきましては、年間３０日以上欠席した者のうち、「病気」や「経済的理由」を除く、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により登校しない、或いはしたくともできない状況にある者とされております。網走市においては、平成２７年度に不登校として報告を受けている児童生徒は、小学校で２名、中学校で２０名となっております。
不登校の要因としましては、「家庭に係る状況」「友人関係をめぐる問題」「学業の不振」などが挙げられております。

全国における不登校児童生徒数は依然として高水準で推移しておりますが、当市においては、不登校児童生徒数の割合は全国よりも少なく、過去１０年で最も多かった平成２０年と比較すると約半数となっております。しかし、欠席日数が３０日を越えていないものの、学業不振や友人関係をめぐる問題などから、一時的に連続して学校を休む児童生徒や、家庭環境の問題から欠席が多くなる児童生徒がいることは、各学校からの報告によって把握しているところ

ろであり、生徒指導上の喫緊の課題として、不登校が生じないようにするための取り組みや、不登校児童生徒への対応を進めていかなければならないものと考えております。各学校においては、保護者や地域住民、関係機関等と連携の上、不登校が生じないような学校づくりや、道教委が作成した「児童生徒理解・教育支援シート」を活用した組織的・計画的な不登校児童生徒への支援を積極的に推進するとともに、教育委員会においては、学校等の取り組みへの支援体制づくりや、適応指導教室の整備充実に努めるなど、不登校児童生徒への適切な支援が一層図られるよう努めていきたいと考えているところでございます。

水谷市長 只今、説明のありました「不登校の現状と対策について」、何か、ご質問ご意見等ございますでしょうか。

新谷職務代理者 難しい問題である。毎月、教育委員にも学校経営報告書が届けられ、各校の様子の報告を数年前からもらうようになったが、その中でも、各学校の先生方も悩まれ、学校としても対応していることが読み取れ、現状はいろいろ聞かせていただいている。現状にあわせ、委員としても対応している。

三島教育長 不登校の原因は、1つでなく、さまざまな事が、絡んでいるケースが多い。普段と違うことに早期に気づけるのが望ましいが、現代の学校現場は、いろいろな課題もあり、すぐに対応できていないかもしれないが、できるだけ早期の対応の為の体制作りをし、教育委員会としても教育相談員やスクールカウンセラー等の活用を行いながら、早期発見に努められるような体制が必要と考えております。

水谷市長 教育相談員とカウンセラーは、何人いるのですか。

三島教育長 教育相談員3名とカウンセラー1名が各校を回っています。

富永委員 ある学校では、相談投稿箱のようなものを作っているところもある。先程教育長がいわれた通り、子どもたちのSOSを早期にキャッチできる仕組みが必要だ。昔と違い、地域で子どもを育てる気風が少なくなっていると思うので、地域の協力も課題だと思う。

中山委員 昔は、問題は表に出さない感じであつたが、今はどちらかというと早めに連携をもって解決しようという体制がようやく出来てきたと思う。先生方の意識改革が進んだと思う。

水谷市長 そのとおりだと思います。過去の私の職業経験から、隠して、大きな問題となることが多い。公表とまでは言わないが、隠さず、問題意識をみんなで

もち、早期の対策につなげて欲しい。次に「スポーツを通じての健康づくりについて」の説明をお願いします。

岩本社会教育部次長 「スポーツを通じての健康づくり」について説明させていただきます。

会議資料7ページ資料4をご覧ください。

ひとつめは生涯スポーツの振興についてです。1の現状でございますが、現在小学生から高齢者までの幅広い年代の、市民を対象とした事業を実施しております。小学生については、「こどもスポーツチャレンジ」というスポーツ教室を開催し、体力の向上と、礼儀や協調性を図ることを目的として実施しております。高齢者については「いきいき健康体力づくり教室」を開催し、「安全性」「理解しやすく」「一斉に」という点を基本とし、できるだけ季節に応じた種目を選定し実施しております。また、幅広い年齢層で各種スポーツ教室を開催し、健康・体力づくりと、技術の向上を目的に実施しております。2の課題と今後の事業展開についてですが各年代を通じて参加者が減少傾向にありますので、魅力ある種目の選定、実施方法等について検討していくこととしています。なお、3の各種教室一覧ですが、ここには、それぞれのスポーツ教室の状況を記載してございます。

続きまして、8ページをお開き下さい。ふたつ目は、障がい者スポーツの振興についてでございます。1の目的ですが、(1)には、障がいを持っている方がスポーツを行うことにより期待される4つの目的をあげております。

1つ目は、活動の場を広げる、2つ目は体を動かす喜びを体感してもらう、3つ目は、健康増進・体力の向上、4つ目はスポーツを通じた仲間づくり、の4点でございます。(2)として、将来的に、参加者の中からスポーツ大会に出場する選手を育成することを目的としております。

2の今後の取組についてですが(1)の障がい者団体との意見交換会につきましては、11月18日に、網走市身体障害者福祉協会他5団体の方々に参加をいただき開催いたしました。

各団体の取組状況につきまして、報告いただいた後、障がい者スポーツへの取組につきましてご意見をいただきました。その中で、出席した方からの意見として、市が障がい者スポーツ振興に取り組むことについて、評価をいただく言葉をいただきました。具体的には、参加しやすい種目を選定し、スポーツに親しむ内容にしてほしい。開催時間帯について考慮してほしい。競技志向の参加者には、専門的な指導も願いたい。というご意見をいただいております。次に(2)の意見交換に基づく取組の展開について、具体的に今後取り組んでまいります。

(3)の指導者の育成については、取り組む上で必要であり障がい者のスポーツ指導員資格を取得される方への支援を行うほか、日本体育大学附属高等支援学校の協力をいただき、指導者育成を行っていきたいと考えております。

(4)の指導者・選手を招聘した講習会の開催につきましては、従来より網走で合宿いただいている、パラリンピアン・指導者にご協力いただき障がいの

ある方を対象とした、スポーツ講習会を考えております。
スポーツを通じた健康づくりに関しては以上でございます。

水谷市長 只今、説明のありました「スポーツを通じての健康づくりについて」何か、
ご質問ご意見等ございますでしょうか。

三島教育長 障がい者スポーツについては、現在は、進んでいないが、来年、日体大付属
高等支援学校開校を機に指導者も来られ、連携が図れ、また、市民の方にも、
理解と振興を深めていただき、市としても進めていきたい。

水谷市長 これからですよね。来年できる支援学校と連携のもと、先進的な取り組み拠
点として、トップアスリートを目指すばかりでなく、支援学校の先進事例取
組みとして教育委員会も協力いただきたく、私も期待しております。

市民健康プールは、利用人数が多いですね。

岩本社会教育部次長 新しい施設ということと、指導者の人材確保が充実いたしました結果と思
います。

水谷市長 なければ、協議事項（１）「教育課題について」につきまして、ご承認とい
うことでよろしいでしょうか。
（「はい」の声）

水谷市長 続きまして、協議事項の（２）「その他」ですが、全体を通して、何か、ご
ざいますでしょうか。
（「ありません」の声）

水谷市長 なければ、以上をもちまして、第１回網走市総合教育会議を閉会させてい
ただきます。ありがとうございました。

【会議終了 午後２時１５分】